

## 5. 卒業論文について

### 5-1. 卒業論文の意義

大学における勉学と研究成果の総まとめとして、全員が4年次に卒業論文を提出しなければならない。その単位は卒業に要する専門教育科目必修単位中6単位（演習及び演習・卒業論文）と定められている。学生の自主性を重んじつつ、指導教員が個別に指導・助言に当たる。学生諸君はこの論文をまとめることによって、初めて自己の学問的な立場を確立し、将来の進路の基盤を得るのであるから、その意義の重要性を十分認識しなければならない。論文作成のあいだ終始積極的に指導教員の指導を受けることが必要である。

なお、3年次演習と卒業論文の履修は一貫していることが望ましい。なぜなら、3年次後期の演習において学生は自ら設定した研究課題について研究を行い、その成果を卒業論文にまとめる。演習と卒業論文作成をとおして指導担当教員と学生が深くディスカッションを行い、研究テーマを絞り込み、研究方法を洗練することができるからである。

### 5-2. 指導教員

論文の審査・評価にあたる教員は、人間開発学部所属の専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）とする。

### 5-3. 題目届の提出

卒業論文は題目届を提出する必要がある、その時期は次に示すとおりである。未提出者は卒業論文を提出することができない。

題目届（4年次）……………7月末 所定日

### 5-4. 論文の用紙ならびに枚数・体裁(次ページ図参照)

- 1) 字数：原則として20,000字以上とする。  
(ただし指導教員の指導により研究手法に合わせて適切な字数で作成する事も認める。)
- 2) 用紙ならびに体裁
  - ① 履修要綱に掲載の通り、縦書き・横書きに関わらず、表紙・裏表紙・トビラを付けること。
  - ② <縦書き>
    - ボールペン等で手書きの場合は、原則としてB4判400字詰縦書き用原稿用紙(20字×20行)で50枚(中折り・表裏100ページ)以上とする。(体裁A)
    - パソコン等を使用する場合は、原則としてA4判無地(1ページ1200字)×17枚以上とする。(体裁B)
  - ③ <横書き>
    - ボールペン等で手書きの場合は、原則としてA4判400字詰横書き用原稿用紙(20字×20行)で50枚(50ページ)以上とする。(体裁C)
    - パソコン等を使用する場合は、原則としてA4判無地(1ページ1200字)×17枚以上とする。(体裁D)

※提出に当たっては、原本と学内保管用（電子データ等）を指示に従って提出すること。

### 5-5. 論文の提出期日

- 1) 卒業論文の提出期限は、当該年度に出される指示に従って期限を厳守して遅れることのないよう注意すること。
- 2) 締切日・時間に遅れた論文は一切受理しない。

5-6. 体裁について

▼縦書きの場合(体裁 A・体裁 B)

―表紙― 表紙およびトビラは以下のように作成すること。

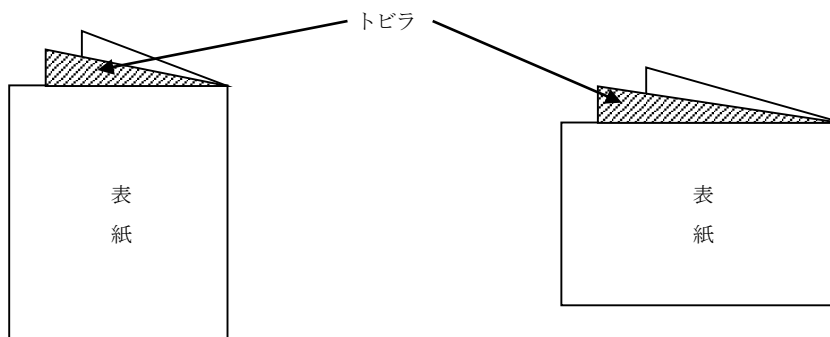
[表紙]

卒業期 学籍番号	題 目	指導教員 ○○○○
学科 組 番		教授(准教授、 講師、助教)
氏名 ○○○○		

[トビラ]

表紙と同じことを記入する。  
(表紙と論文の間につける)

―見本―



卒業期：平成30年3月卒業見込みの場合  
卒業期は126期

▼横書きの場合(体裁 C、体裁 D)

―表紙― 表紙およびトビラは以下のように作成すること。

[表紙]

指導教員 ○○○○	教授 (准教授、講師、助教)
題 目	
卒業期 学籍番号	学科 組 番 氏名 ○○○○

[トビラ]

表紙と同じことを  
記入する  
(表紙と論文の間につける)

―見本―

